

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 和や家くずまき

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100129		
法人名	株式会社 介護いわて		
事業所名	グループホーム 和や家くずまき		
所在地	〒028-5402 岩手県岩手郡葛巻町葛巻29-34-4		
自己評価作成日	令和5年8月1日	評価結果市町村受理日	令和5年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所独自の理念「共に笑い、共に生きる」 家を離れ、家族と離れて暮らす利用者の心に寄り添い、利用者が安心して暮らせるように共に過ごす時間や会話をを大切にし、利用者が楽しく暮らせるように日々の活動やレクリエーション・行事等も工夫している。そして、「その人らしくある為に」、役割を考え、自立に向けた支援に取り組んでいる。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は森林や農地に囲まれた集落の中心部に位置し、周辺には小学校、保育園、郵便局、住宅などもある。自然豊かな場所に立地している。特に保育園、小学校との交流が活発に行われ、利用者にとって子どもたちとの交流は大きな楽しみ、心の支えになっている。コロナ禍のため地域の行事への参加を見送ってきたが、5類に移行し、地域行事も再開しつつあり、さらに地域との交流が深まることが期待される。事業所運営に当たっては、法人内の他施設での経験や知識を共有し、相互連携を図っており、法人としての運営のメリットが活かされている。利用者の家族には、利用者ごとの個人通信を作成送付するなど情報発信に力を入れており、家族が安心して入居させることができる環境づくりに努めている。事業所固有の理念である「共に笑い、共に生きる」を職員全員が共有し、常に利用者本位で利用者に寄り添い、表情や仕草からその思いをくみ取るようにしており、様々な機会に職員間での議論を重ねながら、より良いサービスの提供に取り組んでいる。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に笑い 共に生きる」をホールに大きく掲示し、職員間で共有しながら業務に携わっている。職員は常に意識を持ち、共に笑う事は勿論、時には本気で言い合い、時には利用者の話に涙する事もある。	開所時に職員の声を集約し「共に笑い生きる」を事業所独自の理念としており、笑顔を絶やさず、利用者の心をくみ取り、利用者と共に在ることを基本としている。そのため、本音で利用者と話しており、職員ミーティング等ではそれぞれが利用者本位で話し合うため、結果として利用者にとって良い方向に向いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス5類に移行後、小学校の運動会見学、保育園の夏祭り見学、シルバーリハビリ体操への参加等、少しずつ地域との交流を始めている。総会への出席や農村センターの花植えや草取り等の日常的な交流もできることから始めている。散歩に出た際には挨拶し、お互いの様子を会話している。	事業所の直ぐ近くにある保育園や小学校の子どもたちとの交流が特に活発である。保育園は散歩コースの一つにもなっており、途中で園児ともよく会い、園児たちと撮った写真がホールに掲示されている。また小学校とは運動会の見学・応援などを通じて交流を深めている。開設当初は拠点が岩手町でもあり、葛巻町になじむことに時間を要したが、今は避難所に指定されている農村センターの鍵を預かり、職員も日頃から率先して花植えや草刈りを一緒に行うなどの関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や自治会を通して、困ったことがあったり悩みがある場合は、気軽に相談できる場所として声をかけて頂くようお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため3年間書面開催だったが、7月より対面会議を再開した。避難時のための利用者状況の把握に対するご意見や、事故防止に対するご意見を頂いた。直後に事業所でミーティングを行い報告、サービス向上に活かしていきたい。	書類開催の場合や都合で参加できなかった委員には資料を直接届けており、委員としての自覚をもてる環境づくりに努めている。自治会長や民生・児童委員の委員は最近交替したばかりで対面での開催はまだ1回だけであり意見も少ないが、両者とも若い世代となったこともあり、今後意見交換を重ね運営の在り方はこれからさらに工夫を重ねていくこととしている。	運営推進会議の委員としての立場に限らず、地域の方々に事業所の理解を深めてもらうため、随時、消防や警察の職員・団員や地域の方々にも参加してもらうなど、運営推進会議の場の一層効果的な活用や取り組みの検討を期待します。

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状、積極的な取り組みは出来ていない。電話やメールでの連絡に対しては即対応し協力関係を築けるよう努めている。地域ケア会議や研修には極力参加し連携を図って行きたいと考えている。他、何か良い方法があればアドバイスを受けてみたい。	コロナ禍後、以前より電話やメールで連絡を取り合うようになった。また管理者は週に1回役場に行く(事業所のメールボックスがあるため)ようにしているが、まだ担当者と気軽に話を交わすまでには至っていない。地域ケア会議や研修会には管理者のほか職員もできる限り参加しており、そのような機会を活用して、対面で事業所の状況を伝え連携が深められるよう努めている。	町(地域包括支援センターを含む)との連携強化のためにも、役場(同センターも含む)の担当者に事業所や利用者の状況を良く知ってもらうことが大事なことから、事業所側から率先して機会を作り、町内唯一のグループホームを直に見て理解してもらえるよう働きかけることも大切と思われますので、今後そのための取組を進めることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状、身体拘束は行われていない。対象となる具体的な行為の理解は全職員ができています。安全確保のため、正面玄関は24時間施錠している。身体拘束適正化委員会は3ヵ月に1度開催、職員研修は月例会議を利用し年2回行っている。	身体拘束は行われていないものの、その重要性は職員全員が認識しており、年2回の職員研修でも継続的に学んでいる。特にスピーチロックについては、具体例に基づいた研修を行っている。また、運営推進会議においても年2回、身体拘束について取り上げ、課題と現状を説明して理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	現状、虐待は行われていない。対象となる虐待の理解は全職員ができています。また、虐待を見過ごす事がない様、職員の意識と職場内の環境は整っている。来年度からの制度改正に向けて、委員会の設置と開催、事業所内研修を強化していく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンライン動画での研修は行ったが、全職員が、権利擁護に関する制度の理解ができていない。現状において、制度の活用機会もほとんどない。該当するケースが出た際に対応できるよう、勉強会を行って行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	令和4年7月より、契約時は管理者とケアマネの2名が立ち会うこととした。ケアマネからは、ケアプラン、看取りについての説明や必要な聞き取りを詳しく行い、管理者は、書面で確認しながら丁寧に説明し理解、納得を得るよう努めている。料金等の変更に関しては事務局より行ってほしい承諾を得ている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン発送時書面での説明と家族の希望確認を行っている。15分程度の面会が可能となり、利用者・家族・職員との交流を大切にしている。日頃より利用者との会話を大切にし要望を聞き、外出支援(買い物・ドライブ)や散歩などの機会を増やしている。2か月に1回の個人通信の作成、発送を継続している。	家族からの運営に関する意見等はあまりない。家族の面会等もコロナ禍もあって少なく、その際に何か要望・意見が出ることはほとんどない。一方、事業所から家族への情報発信には力を入れており、法人発行の「和や家通信」を送付する際に、各利用者ごとの個人通信も作成して併せて送付している。また利用者の意見・要望は、会話を楽しむ環境づくりに努めている中で、日頃の会話や態度から思いや希望をくみ取るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の月例会議を開催している。行事報告、担当業務からの改善提案などを聞き反映させている。現状2か月に1回だが、月1回ペースでできるよう改善していきたい。細かな点においては、日々の申し送りや申し送りノートを活用して職員間で共有できるようにしている。	月例ミーティングの際には、職員から改善案等が出され活発な意見交換をしている。その結果、改善が妥当と判断されたものは運営に反映させている。最近の例では、「勤務記録についてそれまでの手書き方式からタブレットの利用に変更したこと」などがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準や資格手当、夜勤手当が上がったことにより責任感や向上心のアップに繋がっている。また、事務局は常に勤務状況や現場の状況を把握して、働きやすい環境・条件の整備に努めてくれている。相談しやすい雰囲気もあり職員は安心して働けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保している。外部研修は会社負担で受けることができ、資格取得補助も行っている。内部研修として、オンライン動画を導入し働きながら無理なく勉強できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協会に加入している。日程が合わず交流会・勉強会には参加できなかった。町内の介護保険施設には年2回ご挨拶に行く機会を設け、交流を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴の理解と把握、本人の話を傾聴し、全職員での共有と支援方法の統一に努めている。声掛け・見守りを大切に、安心できる日常生活を提供している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に一度本人、家族との面接の機会を設け、要望、意向などを聞けるようにしている。ケアプラン発送時、生活状況の他、医療面なども報告し良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望(困っていること)を聞きケアプランに反映している。状態観察後再度検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日14:00から一緒に掃除を行っている。その他、調理、下膳、茶碗拭き、洗濯物たたみなどできることをお願いしている。また、全員が揃って過ごす余暇時間も大切に、利用者から職員が色々なことを教わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時にも「共に支えていきましょう」とお話しさせて頂いている。ケアマネ、担当者を中心に、報告・相談をしながら良い関係を築く努力をしている。2か月に1度の個人通信は心を込めて作成している。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のケーブルテレビや広報、地図を見ながら話題提供し会話を楽しんでいる。体操への参加、通院時などに顔馴染みの人と再開できたり、買い物やドライブなどで馴染みの場所との関係を保っている。	町社協が月2回開催しているシルバーリハビリ体操には、参加できる人は参加するようにしており、その際に馴染みの人に出会うことが多い。また病院受診の際も同様に、なつかしい人との会話を楽しんでいる。地元葛巻町のケーブルテレビが地域的话题を流しており見て喜んでいる一方、「帰りたいなあ」とつぶやく利用者もいることで、職員としては本人自体の持つつらさを感じてしまう場面もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間での居室訪問なども見られ良好な関係を見守っている。日々の様子を注意深く観察し、座席の位置にも配慮している。可能な限り職員も加わり、皆が会話に入れるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は基本的に次のケアマネにお願いしている。		

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人1人との会話を大切に、記録や申し送りにて共有し検討している。表現が困難な利用者の場合は表情や行動を良く観察し、思いをくみ取れるよう努めている。	比較的、男性の利用者は女性よりも大人しく、一方女性の利用者は積極的で人の目を気にせず、マイペース、話好きである。ただ、男女ともに、認知症のため会話から得られる思いが全てとは限らないことから、「共に笑い共に生きている」利用者に寄り添い、思いをくみ取るようにしている。敷地内の畑で担当職員と一緒に作業をすることがあるが、その際に本音がでることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用申請書の段階での情報収集し、不足分については入居当日、本人・家族から聞き取りを行っている。その後は、本人とのコミュニケーションを通じて把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記を元に日々の関りの中で1人1人の現状の把握はできている。新たなる発見や変化は記録に残し、申し送りやノートで共有し、月例ミーティングのカンファレンスで検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りと月例ミーティングで改善案を検討し、ケアプランに反映、実施している。	介護計画は、ケアマネが原案を作成し、職員・家族に意見等を確認の上、それをもとに案を作成している。3か月ごとに見直し、月例ミーティングで職員に検討してもらい最終案を完成するなど、チームとして作成している。当初の計画・見直し後の計画ともに、家族に送付し、意見を出してもらうように進めているが、家族から意見が出てくることは少ない。職員から改善事項を出してもらい、計画に反映されるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・発言・気づいたことなど、または実践結果を記録に残し、申し送りやノートを活用して共有している。そして検討した上でケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の希望を把握した上で可能な限り支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の病状・生活面での変化により、医療機関・介護施設、行政に可能な範囲で情報提供や相談し、利用者が安全・安心して生活できる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、葛巻病院月1回8名、佐渡医院月2回1名 バイタル・一般状態について説明、関係性は良好である。急変時は、直接主治医と連絡が取れる体制になっている。	国民健康保険葛巻病院(月1回8人)と岩手町の佐渡医院(月2回1人)の訪問診療を受けているほか、歯科も訪問診療を受けており、事業所や利用者との連携は良好である。泌尿器科や心療内科等の特定診療科は職員が同行しての通院となる。その他、法人の訪問看護ステーションの訪問看護も受けており、利用者に変化がある場合は24時間連絡を取れる体制が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者の体調や変化など職場内の看護師に相談・報告している。法人内にも訪問看護ステーションがあり、連絡体制ができています。どの利用者も適切な受診や看護を受けられる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	葛巻病院に関しては、地域連携担当者又は受け持ち看護師と連絡を取り情報交換している。他医療機関に関しては、受診日に状態についてファックスを送り情報提供。関係性は良好であると考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、「看取りについて」の家族の考えを聞き取りしている。急変時には再度確認し家族の希望を支援している。同じく「重度化に関する指針」も説明するが入居の段階ではないピンとこない様子が伺われる。よって、先々も考え老健や特養への申し込みも平行して行うよう支援している。	この1年で利用者が9名入れ替わり、現在の利用者の介護度が低いこともあり、看取りや重度化について説明しているものの、身近な問題として考えている家族はいない。事業所ではこれまで看取りをした例はなく、看取りが必要な状態になった場合や重度化した場合は病院や特養に移るのがこれまでの例であり、現在の家族もそのように考えている。ただし、今後は「生活の場での終末期対応」を求められることも十分想定されることから、職員間や関係機関と一緒に対応について具体的に検討していくことが必要と考えている。	

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月例会議を利用し勉強会や実技講習会を行っている。搬送時の手順や急変時の対応マニュアルにて、各自イメージトレーニングも行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練と年1回の災害訓練を行っている。訓練には消防や設備業者の立会いをお願いすることもあり、訓練後には利用者と一緒に反省会を行い問題点や課題点を確認している。消防署とは日頃から良好な関係を築いている。今後は近隣住民に協力して頂く訓練を計画している。	近隣の農村センターが避難所になっているが、同センターに長い期間避難することは難しいため、避難困難なときは岩手町の法人の施設に移動する計画としている。なお、同センターまで全員避難するには職員の車を利用しても3往復が必要であり、災害の状況によっては困難も予想される。また、食料等の備蓄は3日分、自家用発電機は7時間しか利用できないため、今後、災害対策の体制について更に検討していく必要があると考えている。	町道を挟んで河川が流れており、これまでは被災はなかったものの、最近の各地での異常気象と被災状況を見ると、想定以上の水害発生もありうることから、今後は消防署と災害時の昼夜を問わずその対応方法について、具体的に詰めておくことが大切と考える。法人事務局とともに、地域の方々や消防団とも話し合いながら、早期に関係者と協議を積極的に進められることを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格や認知症の症状を理解し個々に合わせた声掛けを行っている。居室に入室する際には必ず声掛けし了承を得ている。排泄・入浴介助時は特にプライバシーを配慮した対応を心掛けている。	現在の利用者は車椅子使用者が一人いるものの、排泄についてはほぼ自立できている利用者がほとんどである。排泄への同行や声掛けなどの介助が頻繁ではないが、入浴は介助が必要であり、個人の尊厳とプライバシーを守るという基礎的な理念は、介護支援活動の基本として常に意識して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者との会話を大切にしている。思いや希望を出しやすいような会話の仕方を工夫し、自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の流れもあるが、1人1人のペースも大切にしながら支援している。レク活動や作業などへの参加も本人の意志を確認しながら取り組んでいる。入浴日は事業所側で曜日を設定しているが本人の意向も確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に本人に任せているが、極端な衣類を着用している時は声掛けし調整している。化粧の習慣のある方は継続していけるよう見守り、男性の方には声掛けにて毎日髭剃りをしてもらっている。2~3か月に1回事業所内で散髪を行い喜ばれている。		



令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々ではあるが一緒に調理を行っている。テーブル拭きや茶碗拭き、食後の下膳は自分で出来る方は日課となってきた。食べたい物など希望を聞きメニューに取り入れれたり、行事の際は喜んでもらえる食事を考え提供している。食材の買い物にも同行してもらおう機会を作っている。	行事食としては、利用者の主婦としての経験を活かしてもらい、手づくり餃子や流しそうめんなど皆で楽しみながら準備している。外食については、コロナ禍前は行きたいところ(食堂)に行くかたちで行っていたが、現在は休止している。買物への利用者の同行は、買物時間を含め岩手町まで2時間以上かかるため、利用者の様子を見ながら、行けそうなときに同行してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量をチェックし記録している。摂取量低下時は代替えを考え提供し、必要量の摂取を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、洗面台への誘導・見守り、必要に応じて一部介助や口腔内のチェックを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の生活リズム・排泄パターンにあったトイレ誘導と食事前には必ず声掛けを行っている。また、汚染軽減に努めている。現状オムツの方はおらず、パット交換の方はできるだけ自分でしてもらうように自立に向けた支援を行っている。	リハビリパンツを着用している利用者が5名、オムツの着用はいない。尿取りパットの交換は、自立支援の立場から出来るだけ自分で行うよう努力してもらっている。職員の作業としては職員が交換したほうが楽だが、利用者にとって排泄の自立は生きる自信にもつながることから、努力に寄り添う支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量と運動量を観察している。バランスの良い食事の提供と体を動かす時間を作るよう取り組んでいる。定期で下剤を服用していない方には、無排便3日を基準に下剤を投与。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴予定日は週2回で決めさせて頂いている。時間、順番はその方の様子や好みを考慮し声掛けを行っている。温度や浴槽に浸かる時間など希望に沿った支援を行っている。	入浴については週2回を基本とし、1名以外は介助が必要であり、職員1名が介助に入る。職員と一緒に入ることについては利用者側の抵抗感や羞恥心はなく、利用者によっては職員と2人で会話することを楽しんでいる方もいる。一方、移動が面倒で時々嫌という方もいるが、その場合は無理はせず入れる日に入ってもらおうようにしている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が安心して休めるよう居室の環境を整えている。日中帯の休息はその日の体調を管理し声掛けや対応を行っている。。また、午睡の際には安全確認のため居室の扉は開けさせてもらいカーテンのみ閉めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬情報を把握できているレベルまでは行っていないが、薬剤情報ファイルを作成し利用者1人1人の内服薬の副作用について勉強している。変更があった際には、事業所内看護師が注意点や観察事項を指導してくれており、変化があれば報告・相談し検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日めくりカレンダー・洗濯物たたみ・茶碗拭き・調理・買い物など、その方にあった役割を持って頂くよう支援している。全員の役割としては、当番制での食事前の挨拶、居室掃除などが定着している。好きなこと、出来ることを把握して作業を考え、全員が楽しめるレクリエーションを考え気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人のその日の希望に沿った外出支援は困難だが、施設周辺の散歩や日光浴などは積極的にやっている。コロナが落ち着いてからは、買い物や用足しなどに一緒に出かけている。車窓からだが、秋のお祭り見学や紅葉、春のお花見など楽しんで頂けた。家族や地域の方と協力しながらの外出は行えていない。	散歩を希望する利用者には、職員が同行し近隣を歩いてもらっている。その他の利用者に対しても、時々外(敷地内)で過ごす時間を設けており、出来るだけ自然に触れ季節を感じてもらおうようにしている。これからはお祭りのシーズンであり、9月は葛巻町内、10月は岩手町に見学に行く予定である。季節ごとのドライブも欠かせない行事であり、春の花見は八幡平まで出かけて桜を楽しんできた。なお、ドライブの際は障がい者用のトイレがあるところを選んでる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりは行っていない。必要なものは本人に聞き、家族に相談しながら対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者の希望があった時その都度対応している。家族からの手紙は本人に渡している。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度管理を徹底し、体調含め快適に過ごせるように努めている。季節にあった壁面飾り・吊るし飾りなどを一緒に作成し喜んでもらっている。利用者の好きな音楽をかけたり、季節の花を飾ったりして気持ちよく過ごせるよう工夫している。掃除は毎日行い整理整頓も心掛けている。	共用スペースで悩みがあるのが廊下であり、暖房機が設置されていないため冬場の温度調整が難しく、改善が必要と考えている。一方、廊下には天窗があり、自然の光が差し込んで柔らかい空間になっている。加えて廊下の掃除は出来るだけ利用者にも手伝ってもらい、自分たちがつくっているスペースという意識を持ってもらっている。夜間用の足元ライトも設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファやテーブル席、または居室など、その時の気分により好きな場所で過ごしていただいている。気の合う利用者同士が訪室しあい、楽しそうに会話して過ごしていることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、自分で塗った塗り絵、職員からのバースデーカードや手作りの飾り物などを飾っている。ベッドの向きは本人の希望を伺い、時計は全室に置いている。本人の歩行状態に合わせてトイレから近い部屋やホールとの距離を考え居室設定している。	温度・湿度はエアコン、空気清浄機で管理されている。ベッド、チェスト、カラーボックス、戸棚(ハンガー付き)が設置され、テレビ、家族写真、行事写真、位牌などが持ち込まれているなど、利用者が安心して楽しく過ごせる配置となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や自分の部屋が分かるように表示している。昨年夏よりホールに日めくりカレンダーを設置したことにより利用者はそこを見て日付・曜日が分かるようになった。洗面台の歯磨きコップなどにも名前を付けて自分の物が分かるようにして自立を図っている。食席に貼られた名前を見ながら他利用者の名前も覚えている。		